小森はるか監督作品上映

『春、阿賀の岸辺にて』
『おあがりんちょ』

トークセッション

本当の“支援”を模索する
——新潟水俣病患者さんと共に生きる経験から

1956年、熊本県で公式確認された水俣病。化学工場が不知火海を汚染し、自然界と人間に被害をもたらしました。9年後、新潟県阿賀野川上流の化学工場によって同様の公害が引き起こされ、いまも両地で救済を求める被害者の闘いは終わっていません。
新潟ではドキュメンタリー映画『阿賀に生きる』(1992年、佐藤真監督)が生まれました。その仕掛け人・旗野秀人さんは、映画の他にも数々の創作物を生み出し「冥土のみやげ」と称して、水俣病患者さんたちと映画を通じて繋がったあらゆる世代の人たちへ贈り続けてきました。

小森はるか監督は旗野さんを「本当の支援とは何か、模索する人」と言います。そんな旗野さんに魅了された小森監督は、新潟に移住し2つの映画を作りました。
今回、旗野さんと小森監督、映画出演者の中村美奈子さんと小林知華子さんを京都にお招きし、映画を観て交流する機会を開きます。映画が好きな人、日々の生活を大事にしたい人、何らかの社会問題に取り組む人、このチラシに心惹かれた人など、気軽にお集まりください。



©Komori Haruka

［日 時］
2026.12.6 SUN
13:30—17:00（開場13:00）

［場 所］
河原町カトリック会館 地下2階大ホール
京都市中京区河原町三条上る下丸屋町423

［定 員］
70名

［共 催］
アナーカ部落フェミニストの会
京都教区カトリック正義と平和協議会

［ゲスト］
旗野秀人さん、中村美奈子さん、
小林知華子さん（以上、映画の出演者）、小森はるか監督

［チケット代］
前売り 2,000円
当 日 2,500円 ／ カンパ付チケット 3,000円

■映画は日本語字幕付きで上映します。
■トークの際はUDトークを用いた字幕配信を行います。スマホやタブレットなどお手元の端末で、日本語字幕あるいは機械翻訳による他言語字幕が閲覧できます。

作品紹介

『春、阿賀の岸辺にて』

■2025年、小森はるか監督、64分。

新潟水俣病の患者運動の支援者、旗野秀人さんは映画『阿賀に生きる』(1992年/佐藤真監督)の発起人。現在も「冥土のみやげ」企画という“文化運動”を一人で続ける旗野さんに惹かれた作者は、阿賀野川流域へ移住し撮影を続ける。本当の支援とは何か。死を別れとはしない、そばに居続ける人の50年の歩みを映し出す。

作品紹介ページ／ https://note.com/komoriharuka/n/nbc0a974e24cd ▶





©Komori Haruka

ゲスト 旗野秀人 はたの・ひでと

1950年阿賀野市(旧安田町)生まれ。71年に水俣病患者の川本輝夫さんと出会い、家業の大工を継ぎながら、地元で新潟水俣病患者支援を続けてきた。聞き書き集、映像作品、絵本、CDアルバム、お地蔵さんなど世に生み出してきたもの多数。

『おあがりんちょ』

■2026年、小森はるか監督、56分。

新潟県阿賀野市に住む中村美奈子さんの日々を記録している。『春、阿賀の岸辺にて』の主人公・旗野秀人さんの妹。母の生き方を受け継ぐように、畑を耕し、本を読み、干し柿をつくる。暮らしの中で抵抗を続ける身体を見つめた。





©Komori Haruka

ゲスト 中村美奈子 なかむら・みなこ



ゲスト 小林知華子 こばやし・ちかこ



新潟市在住。旗野さんの文化運動に感銘を受け、2013年頃から活動の手伝いを買って出るようになった。普段は病院勤務。

ゲスト 小森はるか こもり・はるか



©Komori Haruka

映像作家。1989年静岡生まれ。瀬尾夏美(画家・作家)とのアートユニットやNOOK(のおく)のメンバーとしても活動。2011年以降、岩手県陸前高田市や東北各地で、人々の語りと風景の記録から作品制作を続ける。映画『阿賀に生きる』に影響を受け、2022~2026年まで新潟市に住みながら制作を行う。現在はさいたま市在住。主な作品に《息の跡》(2016年)、《空に聞く》(2018年)、《二重のまち/交代地のうたを編む》(2019年/瀬尾夏美と共同監督)など。《春、阿賀の岸辺にて》(2025年)は恵比寿映像祭2025 第2回コミッション・プロジェクト特別賞受賞。

チケット予約方法

QRコードのフォームからお申し込みください。

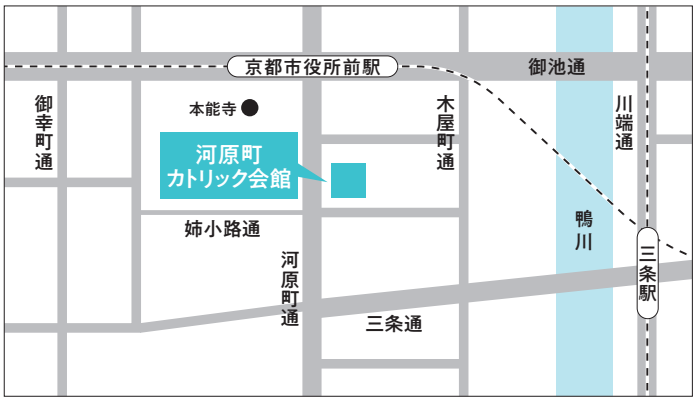
(070-5341-1983までお電話も可)

※前売りチケットは事前入金にご協力ください。
入金方法は申込者へお伝えします。

[企画者よりひとこと]

「アナーカ部落フェミニストの会(ABFC)」は、部落女性が自らの言葉で語り、他者とともに学んでいくことを大事にし、2023年から各種活動を始めたグループです。Zine制作、各地での読書会やフィールドワーク、部落解放運動の先達たちの聞き取りや会員制ラジオ配信などに取り組んでいます。
今回の企画は、ABFCの私(=ともえ)が20年以上にわたって交流を続けてきた旗野さんたちの運動とその思想を、多くの人たちに知ってほしいと思って開催するものです。平和や人権の問題について取り組む「京都教区カトリック正義と平和協議会」の皆さんが趣旨に賛同し、会場を提供してくださいました。また、京都市人権啓発活動補助金の交付を受けて実施します。

ACCESS



京都市営地下鉄「京都市役所前」駅より徒歩3分
京阪電鉄「三条」駅より徒歩10分

お問合せ

2023abfc@gmail.com